

立命館中学校・高等学校 2021年度 学校目標年度末報告シート

区分	教育目標		中期目標		D. 自己評価	E. 具体的施策 (どのような方法で)
	A. 課題 (上位目標)	B. 目標 (中位目標)	C. 達成目標 (当年度目標)	D. 自己評価		
I	基本的な生活習慣の確立を促す支援	1 基本的な生活習慣の確立と定着に向けた指導の徹底	(1) 時を守り、遅刻を許さない環境づくり	○	① エントランスでの朝当番による挨拶と手指消毒 ② 各授業での開始時と終了時における「あいさつ」の励行 ③ 生徒会執行部を中心とした挨拶運動の実施 ④ SNSとの関わり方への啓蒙など家庭との協力体制の確立 ⑤ オリジナル手帳を活用した自立・自律を促す取り組み ⑥ 面談期間等を活用した個々の生徒への助言や支援	
			(2) 各授業におけるはじめと終わりの規律の徹底 (あいさつ、切り替え)	○		
			(3) 家庭学習の時間確保に向けた各家庭との協力・啓蒙	△		
			(4) 基本的な生活習慣の確立のための生徒支援の充実	◎		
	生活改善と人格形成	2	(1) 「時を守り、場を整え、礼を尽くす」精神の再徹底	○	① 日々の挨拶の徹底(職員による毎朝の率先垂範) ② 駅や通学路などにおける社会的マナーの啓蒙(「地域を愛し、地域から愛される学校」に) ③ 障がい者理解の取組の促進(講演会等、道徳の取り組み) ④ いじめ防止・早期発見指導(いじめ対策委員会と各学年会の連携) ⑤ 保護者とともに取り組む、子育て講演会などの実施	
			(2) 挨拶が飛び交う明るく前向きな学校文化の醸成	○		
			(3) 情緒・感性・豊かな人間性の育成	◎		
	II	高い学力形成と主体的な学びを促す授業づくり	1 新カリキュラム導入への検討	(1) 2022年度からの新カリキュラムの構築	◎	① カリキュラム検討委員会を通じた新カリキュラムの検討と構築 ② 各教科の教育内容・指導内容の系統化(コンピテンシーカレンダー) ③ 探究力育成に向けた検討と新カリキュラムへの反映 ④ 教員の働き方改革にもつながるカリキュラムの改革 ⑤ 教科横断的な科目の検討・設定などについての教科を越えた議論 ⑥ 新カリキュラムに向けた移行期の対応の検討 ⑦ 基幹授業5日制に伴う土曜日の取り組みの検討(サタデーボックスの構想と具体的計画)
				(2) 「カリキュラム検討委員会」の議論を受けた週時間数や授業設定のあり方の策定と各教科における教育内容・指導内容の再検討	◎	
				(3) 新学習指導要領や学校の教育目標に則した学校設定科目等の検討	◎	
		学ぶ楽しさ、分かる楽しさ、自らの成長が実感できる、よりよい授業づくりへの研究と実践	2	(1) 公開授業研究会の実施	○	① コロナ対策として校内授業研究会の実施(公開授業研究界に代えて) ② 各学年での公開授業の実施 ③ 執行部教員も含め、教員相互の授業見学と助言のシステム化の検討 ④ 授業アンケートの結果分析(年々数値が改善している) ⑤ すぐれたオリジナル教材の教科内共有の推進による授業改善 ⑥ 新任教員への指導助言 ⑦ 英語、数学を中心とした少人数講座の実施と丁寧な指導 ⑧ 学校法人立命館研究研修センターと連携した各種研修会の充実 ⑨ 学外で実施される学会、教育研究会への積極的な参加と最新教育情報の入手(オンラインによる研修会の参加も含む) ⑩ 本校の教育実践の広報や学外への普及
				(2) 授業評価アンケートの実施と授業改善	○	
				(3) ともに学ぶ相互授業見学環境の確立	○	
				(4) 少人数講座やティームティーチングによるきめ細かな学習指導	◎	
				(5) 校外での各種研修への積極的参加	○	
				(6) 附属校教育研究・研修センターとの連携の充実	◎	
		基礎学力のさらなる充実と高い学力形成	3	(1) 主体的な学習姿勢の形成(予習・家庭学習時間の拡充)の方策の検討	△	① 各教科・各学年での最低到達目標の明確化と定着への取り組み ② 反転学習の導入など効果的な予習指導の実践 ③ 家庭学習時間調査の実施による実態把握と家庭学習習慣確立に向けた取り組み ④ MANAウィレッジによる学習支援が必要な生徒への手厚い個別サポートの取り組み ⑤ 定期考査や学期末など節目での成績の分析と補習など学力定着への実践 ⑥ 基本的な知識や技能の習得に向けた小テスト等の適切な実施 ⑦ 思考力、判断力、表現力育成を目指したグループワークやレポート指導等の実践 ⑧ 主体的に学習に取り組む姿勢・態度を育む面談等の個別支援
				(2) セカンドステージ後半(中1・2)における、基礎学力向上(サードステージの学びを見据えて)	○	
				(3) サードステージ(中3～高3)における、高い基礎学力の育成(大学・大学院進学後を見据えて)	○	
				(4) 個々のつまづきに応じた個別学習支援策の検討と実践	○	
		探究力育成とICTの活用	4	(1) 中高6カ年の探究力育成システムの検討	◎	① 「課題研究科」を中心とした「課題研究」の全校的実践とコロナ禍における発表形態等の検討 ② 各教科でのレポート、ポスターセッション等の研究活動の充実 ③ SSGを中心とした国際共同課題研究の実施とノウハウの普及 ④ 探究力育成を軸とした、課題研究と一般の授業との連携の推進 ⑤ 課題研究における高大連携の積極的な推進 ⑥ 探究力育成の重視を反映した新カリキュラムの構築 ⑦ iPad導入学年における「文房具」としての積極的な活用と授業改善
				(2) 高2・高3年全校で実施の「課題研究」の充実	○	
				(3) ICT環境の充実と積極的活用	◎	
				(4) iPad導入初年度での積極的な活用と実践の普及	◎	
キャリア教育の充実		5	(1) GE・SSをはじめとした各コースの高大連携の充実	○	① アカデミックデー・キャリアガイダンスなどの充実 ② 学部スペシャリスト等と大学各学部との連携の充実 ③ オンラインを活用した進路学習、キャリア教育の実践 ④ 各自の進路を支援する、担任・学年・執行部による面談の実施 ⑤ 中3からの高校進学や高校での進級の際の他高校入学・転学に関わる安定的な支援体制の構築	
			(2) 自らの進路を主体的に考えさせる進路指導の充実	○		
			(3) 社会と結びつき、キャリアを体験・考えさせる機会の充実	△		
MS等の進学実績の向上		6	(1) 医学部等難関大学の合格者数の増加	◎	① 中3からの4年間MS指導プログラムの確立と充実 ② 他大学・高校等の情報提供とデータ蓄積と分析 ③ 自習室の積極的な活用 ④ スタディサプリなどオンライン教材の適切な活用	
			(2) 多様な進路を希望する生徒への個別支援	◎		
III		自立し社会に貢献する心の育成	1 生徒会活動・委員会活動・クラブ活動の活性化	(1) 学校・学年行事での自主性・主体性や自立心の育成	○	① 学年行事や生徒会活動を通して、自主自立に向けた成長の促進 ② 学内協議会、学内懇談会、修学旅行協議会などの充実と議論する力の醸成 ③ クラブ政策に基づくモデルクラブ・重点強化クラブを柱とした活性化 ④ 文化祭・体育祭・修学旅行などの構想と計画、実行と総括による高いレベルのリーダーシップの育成とフォロワー育成による集団づくり
				(2) 生徒会活動や委員会活動への積極的関りを促す指導の検討	◎	
	(3) クラブ活性化政策の推進			○		
	社会貢献活動の充実	2	(1) 地域交流・社会貢献活動(ボランティア等)の推進	○	① モデルクラブ部員による地域清掃や吹奏楽演奏などによる地域貢献活動の継続実施と拡充 ② Warm Heart、RIVIO、国内ボランティア活動などの取組みのさらなる充実	
(3) 震災復興支援の取組みの継続と充実			○			
IV	小中高一貫教育の推進(4-4-4制)	1 R-12部長会議での議論をもとに、12年間一貫・6年間一貫プログラムの改善	(1) 小中高一貫教育システム(4-4-4)の教育体系の総括と見直し・検討	○	① R-12部長会議での連携 ② 小学校の保護者対象のキャンパス見学会・説明会による情報提供 ③ 小中高合同によるカリキュラムの具体的協議の活性化 ④ セカンドステージのICT教育、教科教育の連携	
			(2) セカンドステージの教育連携	○		
	2 児童生徒の交流及び小学生の長岡京登校	(1) G5・G6児童の長岡京登校での教育内容の充実	△	① R12部長会議を中心とする長岡京登校プログラムの企画運営 ② 通学・給食・チャイムなどの学校運営上課題の整理と円滑な実施 ③ クラブ活動や諸行事における生徒・児童交流		
		(2) 長岡京キャンパスを活用した小学校行事の活性化	△			
		(3) 児童生徒の交流活動の拡充	△			
	1 科学教育の推進	1	(1) 第5期SSH事業ならびに人材育成重点事業の円滑な遂行と今後の展望の検討	◎	① JSSF2021(オンライン)の計画と実施 ② 理数分野における「課題研究」のさらなる充実 ③ 国際共同課題研究の拡充 ④ 科学オリンピック等への参加促進と指導体制の検討 ⑤ 国内外校との連携ならびに立命館をはじめとする大学連携の促進	
(2) 理系人材の育成数の拡大			○			

管理運営課題	V 科学教育・国際教育の推進	2 国際教育の推進	(2) 高大連携を中心とするSTEAM教育の研究・推進	○	⑥ STEAM教育の拠点となる施設の検討と試行的実践
			(1) WWL事業の円滑な実施とさらなる充実と今後の展望の検討	○	① RSGF2021 (オンライン) の計画と実施 ② RGS2021 (オンライン) の確実な実施 ③ WWL事業での成果とその校内への普及 ④ GLでの先進的なグローバル教育の機会の拡大とその成果の普及 ⑤ GLコース、SSGクラスでの成果を踏まえた他コースにおけるグローバル教育の水準・機会の向上 ⑥ GJクラスにおけるグローバル教育プログラムの検討と実践 ⑦ 英検・TOEFL・GTECの到達目標の引き上げと整理
			(2) 海外プログラムのさらなる充実と整理、および全校への周知	△	
			(3) 英語運用能力の向上 (英検・TOEFL・GTECの到達度アップ)	○	
			(4) 留学生の派遣数並びに受入数の拡充	△	
	I 「働き方改革」に向けた具体的方策の推進	1 本校の教員の働き方に関わっての「選択と集中」の検討	(1) 基幹授業5日制における教育の推進と法を遵守した働き方改革の両立	○	① 働き方改革ワーキングを設置し、有効な働き方改革の検討と実践 ② 生徒の年間・月間・週間のリズムを踏まえ、適切な学校行事予定の検討 ③ 「文武両道」を保ちつつ(文部科学省「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を受けて)適切なクラブ活動の在り方の検討と先進的な実践の研究 ④ ICTの活用など、事務的処理の軽減策の検討やオンライン配信によるペーパーレス化による情報共有
			(2) 行事の精選、各教科活動の充実	△	
	2 個々の教員の働き方の「見える化」の促進		(1) 就業規則に関して、現実的運用の整理と適正化	○	① 就業規則に関しては、法人の各部署との連携・協力(土曜日のあり方検討を受けて)
			(2) 個々の教員の勤務実態の把握と長時間勤務者への面談の実施	○	② 教員の健康を保つため、産業医面談の励行と執行部面談の実施 ③ KOTの適切な管理による教員の勤務実態の把握
			(3) メールシステムでの「出張・欠勤・遅刻・早退」の届出の事務室へのリンク	△	④ 「出張・欠勤・遅刻・早退」の届出の励行・徹底 ⑤ 会議におけるペーパーレス化のさらなる推進
	II 小中高一貫教育の推進体制(4-4-4制)	1 小中高の運営面での緊密な連携	(1) R12部長会議を軸とした小中高の連携と課題解決	◎	① R-12部長会議の定期的開催と円滑な情報交換 ② 両キャンパスの教員による小中高合同研修会の実施 ③ セカンドステージを中心とした人事交流の推進 ④ 卒業生への広報誌(遊目)における小学校の広報活動への支援
			(2) 教科レベルでの小中高連携	△	
			(3) 生徒支援レベルでの小中高連携	◎	
	III 教員体制の充実と教育力の向上	1 研修・研究の充実	(1) 小中学校での12年間一貫教育を視座においた教員体制の構築	○	① 学年主任会議における学年間の連携の推進 ② ICT活用力向上を目指した様々なレベルの教員研修の実施 ③ 教職大学院との連携 ④ 附属校教育研究・研修センターとの連携 ⑥ 公開授業、研究授業の積極的な開催 ⑦ 教職大学院で学ぶ研修員の成果の普及 ⑧ 授業評価アンケートの結果分析 ⑨ ICTを活用した特色ある授業の実践
			(3) 教職大学院や附属校教育研究・研修センターとの連携による諸研修の充実	○	
(4) 授業公開・授業研究会の活性化			○		
(5) 授業評価を活用した授業力の向上			○		
(6) 教員のICT活用の推進			◎		
2 生徒の学習支援・いじめ防止		(1) 心のケア・学習支援の体制充実	◎	① 保健部を軸としたケース会議の継続的な開催 ② 特別支援教育コーディネーターの育成・配置の検討 ③ いじめ防止対策委員会の定例開催といじめを許さない学校づくり ④ サポートが必要な生徒への支援(心のケア、学習のケア) ⑤ 生徒理解促進に向けた教員研修会の実施 ⑥ 学習支援が必要な生徒に対する対応の検討 ⑦ 支援室を軸とした、生徒状況の共有と生徒支援の取り組みの推進	
		(2) いじめ防止などの生徒状況の早期把握	◎		
		(3) 特別支援教育の理解促進	○		
IV 地域・社会連携ネットワークの拡大	1 家庭・PTAとの連携	(1) 保護者への丁寧な情報伝達	◎	① Classiを活用した保護者への迅速で確実な情報連絡の実施 ② 保護者アンケートの実施とその結果を踏まえた改善 ③ PTAと連携し、学校の状況を保護者に知っていただく機会の設定(オンラインを含む) ④ 保護者向け「子育て講演会」の実施 ⑤ 家庭と連携した新型コロナウイルス感染拡大防止策の実施	
		(2) 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた連携	◎		
		(3) PTAとの連携の促進	◎		
	2 立命館清和会・教育後援会・卒業生父母の会との連携	(1) 清和会(卒業生ネットワーク)との連携	○	① 立命館清和会行事への積極的参加や各種寄付への協力 ② キャリアアドバイザーや学部紹介などへの人的支援の依頼 ③ クラブOB・OG会などのネットワーク化 ④ 創立120周年記念事業に向けた準備	
		(2) 教育講演会・卒業生父母の会との連携	○		
		(3) 創立120周年記念事業への寄付等の支援	△		
3 地域との連携	(1) 長岡京市をはじめとした乙訓地域との教育・文化交流の促進	◎	① 長岡京市と連携した教育実践の推進 ② 長岡京市や近隣地域の文化芸術活動への施設開放および参加 ③ 防火防災体制の強化と各種訓練・備品の整備 ④ エコキャンパスとしての環境教育活動の検討		
	(2) 防火防災の対応の強化	◎			

達成状況

2021年度も新型コロナウイルスによって教育活動が大きく影響を受けた一年となった。しかし、ウイルスに対して、多くの学校行事を中止、あるいは短縮するなど防戦一方であった昨年度と異なり、今年度は生徒と教員がより柔軟かつ新しい発想でウイルスに立ち向かった一年ともなった。様々な感染拡大防止対策を有機的に組み合わせ、文化祭や体育祭等を実施しつつ、校内のクラスター発生を0件に抑えることができた。その過程では創立116年の伝統に裏付けられた、数万人の会員を誇る卒業生組織である清和会をはじめ、立命館中高PTA、教育後援会、卒業生父母の会からも手厚い支援を頂くことができた。

2021年度の本校の教育活動の大きな特徴として、全館Wi-Fi環境の整備とiPad導入とが相まって、ICTを活用した取り組みが大きく前進したことが挙げられる。また、中学校はコース再編2年目となり、中1、中2でのGLコース、ALコースの完成年度となった。それぞれのクラスにおいて生徒たちが小学校時代の多様な学びの経験をお互いに生かし、融和的で落ち着いたHRや授業が実現している。昨年度に引き続きカリキュラム議論を行い、2022年度からの基幹授業5日制と探究力育成を重視した新カリキュラムの詳細が決定した。また、新しい土曜日の取り組みであるサタデーボックスにも多くの教員が実行委員として名乗りを上げ、多様で幅広い自主講座が本校の新しい魅力として開花しつつある。

サイエンス教育やグローバル教育の面では、高校SSGクラスを中心としたJSSF (Japan Super Science Fair) や高校GLコースの生徒を中心に実施したRSGF (Rits Super Global Forum)、中学GJクラスの生徒を中心に実施したRGS (Rits Global Summit) 等においてオンラインを活用し、充実した内容の取り組みを行うことができた。特にJSSFとRSGFは、その先進的な取り組みを全国に先駆けて示した実績が評価され、京都私学振興会から2年連続で名誉ある学校表彰を頂いた。2月4日(金)には「科学教育の国際化を考えるシンポジウム」を主催し、「新しい国際科学教育の到来～オンラインを活用した科学交流～」というテーマのもと、教育界の多くの皆さまにご参加いただき、有意義な意見交換を行うことができた。

一方、一人一人の生徒たちに目を向けると、1800人を超える思春期の真っ只中にある生徒たちの中には、様々な支援やサポートを必要としている生徒も存在する。2020年度に開設した「生徒支援室」の仕組みを充実させ、生徒の支援体制を強化した。生徒支援アドバイザーによる支援プログラムに則って、本校のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、大学教員とも連携し、支援室担当教員や学年の教員でチーム会議や個別支援などを継続してきた。一人ひとりにしっかりと寄り添っていくために、生徒支援室の役割は今後ますます重要になると考えられる。

本校の卒業生の進路先として約75%が立命館大学・APUへ、約25%が他大学・海外大学へという傾向が定着しつつある。医学部医学科にも今年度だけで20名以上の合格者を出すことができた。自由で明るい校風や特色あるサイエンス&グローバル教育、一貫教育の魅力、多様な進路などが相まって、中学校入試、高校入試ともに昨年度を越える多くの受験生に本校を志願していただいた。働き方改革に関しては、従来の学校での教員の働き方のありようを抜本的に変革させようとしなければ達成できない課題である。働き方改革の目的は教員の健康を維持・増進し、働きがいのある職場をつくり、結果として学校としての教育力向上につなげることである。その一方で、クラブ活動など、たとえ休日を返上してでも頑張りしたいと意欲を持つ教員には、休日勤務が認められにくくなるなど、結果としてその教員のやる気をそぐことになる可能性もある。教員の健康も守りながら、教員が気持ちよく笑顔で働ける、バランスのとれた管理のあり方については、法を遵守しつつそのシステムやルールの改善など継続して検討する必要がある。

改善策

新カリキュラムでは、従来以上に生徒の主體的な学びや探究力が重視される。その一方で、特に中学校段階では入学段階から生徒間に大きな学力差が見られることがデータから明らかになっており、英語・数学などの少人数講座実施による丁寧な学習指導に加えて、個々の学習課題に応じた個別最適化学習の試みを推進する必要がある。また、高校においては将来の大学院進学も見据えた探究心の高まる授業づくりに向けた授業改革を進めたい。そのためにも国内海外の先進的な教育に学び、学科での研究を推奨し、ICTも有機的に活用した魅力ある授業づくりに務める。また、立命館小学校の児童だけではなく、その保護者にも長岡京キャンパスに足を運んで頂く機会を積極的に設け、本校の教育への理解を深めて頂き、小学校と連携し、その児童にとって最適な進路指導を推進していきたい。カリキュラムに関しては評価法の検討、高大連携の一層の推進などに取り組む。

働き方改革に関しては、何より教員自身が生き生きと笑顔で子どもたちに接し、持続可能な楽しい教育展開をすることが一番重要であることを共通認識として、各教員の知恵を集め、学園とも連携して、よりよいシステムづくりを検討していく必要がある。

学校関係者評価に関する事項	委員会の構成	片桐昌直(大教大)、帯野久美子(株式会社インターアクト・ジャパン代表取締役)、武田浄(日本電産)、千宗史(茶道裏千家)、駒井潤(片山家能楽)、木曾裕(北浜法律事務所)、山出洋基(サントリー酒類株式会社)、島田和幸(京都府府民環境部 地球温暖化対策課)、孝忠大輔(日本電気株式会社)、また本校関係者として副総長、常務理事、卒業生父母の会会長、PTA会長、PTA副会長、一貫教育部長、校長
	委員会開催日程 主な議題	日程: 2021年9月10日(金) 議題: ①2020年度の立命館中学校・高等学校の自己評価について ②2021年度の立命館中学校・高等学校の学校目標について
	評価、改善事項	社会のありようとも関わるいじめ対策について/文理融合型教育(特にデータサイエンス)の重要性について/ICT教育の推進について/学内進学生徒と受験での入学生との融合について/高大接続と単位認定について/法学入門など効果を挙げている高大連携講座について/高い目標に向かって取り組む教員集団のチーム・マネジメントについて